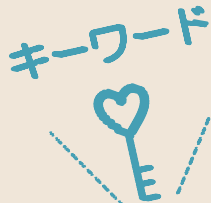


私の朝鮮語 + R

※2020年度インタビュー

国際関係学部 Eさん



国際社会に興味があり、理解を深めたい



留学当初は相手の話していることが理解できない

長期留学 # 日韓キャンプ # SUP! # BBP # 海外旅行

海外ボランティア # 学ぶ環境を自分で作る # 積極的に朝鮮語に触れ



中学の時から韓国の音楽やドラマが好きで、遊び感覚で朝鮮語を少し勉強していました。ホームステイを受け入れる家庭環境があったため、海外に憧れがあり、幅広く国際社会について学べる国際系に興味がありました。大学に入ったら留学に行けたらいいなと漠然と思っていました。

大学に入学後は授業を通じて、記号を文字として認識したり、音を意味のある言葉として理解する過程を学び、朝鮮語の面白さに触れるものの、周りに朝鮮語を話せる学生が多く、授業についていくのに必死で、難しさも感じていました。

2回生の時に、副専攻*の担当教員の紹介で政策科学部のゼミでやっている日韓キャンプにスタッフとして参加し、そこで、日本語を話せない韓国人の友人ができました。また、SUP!LEP**で韓国人の学生がパートナーになり、朝鮮語の学習を深めました。

3回生では、協定の梨花女子大学に1年間留学をしました。留学開始後、最初のオリエンテーションで相手が話していることを理解することができず焦りました。寮に帰ってから授業で理解できなかった単語や内容は翻訳機などを使って理解するようにしていました。はじめは話すのが恥ずかしいと感じることもありましたが、自らやらざるを得ない環境を作りました。例えば受講可能である授業はすべて受講し、日本人学生とペアにならないような席に座り、前の方の席で積極的に授業を受けました。また授業外では、韓国のサークルは入部するためにオーディションを受けるシステムになっているのですが、韓国人だけのギターサークルにあえて飛び込んでみました。最終的に、留学中に韓国語能力試験 TOPIK5級を取ることができるよう、語学力が身につきました。サークルで自分の繊細な感情の微妙なニュアンスを表現できたときに朝鮮語の上達を実感しましたし、はじめは留学生ということでゲストとして接してくれていたサークルのメンバーが、韓国の学生同士が呼んでいるように「お姉さん(韓国では親しい年上女性のことをヌナ、オンニと呼ぶ)」と呼んでくれて、仲間の一員になれたと感じました。留学中に2回目の日韓キャンプに参加をした際には、以前より難しい内容も分かるようになり、通訳スタッフとしても活躍できたと感じています。

4回生となり就職活動や英語の勉強で少し朝鮮語が疎かになりましたが、韓国の友人とSNSやオンラインビデオなどでやり取りを続けたり、韓国のニュースを聞いたりすることで、積極的に朝鮮語に触れるようにしています。ゼミの文献調査では、原文のものなど読める文献の幅が広くなり、多様な視点で考えを深めることができました。

4年間を振り返ると、留学を始め、副専攻やBBP***、日韓キャンプなど朝鮮語を通じて色んな人と会うことで自分の世界が広がり、出会った人の数だけ世界の見方が多様になったと思います。

語句紹介

*副専攻：必修外国語の履修などでこれまでに培った外国語能力をベースに、より一層高い運用能力とその外国語学習を通じて幅広い教養を身につけることを目的としたプログラム。

(対象の学部：法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部・映像学部・経済学部・食マネジメント学部)

<http://www.ritsumei.ac.jp/gengo/seika-manabi/minor.html/>

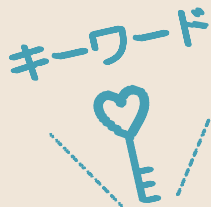
**SUP!LEP：学びたい・教えられる言語をもとに、学内の日本人学生と留学生を1対1でマッチングし、お互いに外国語の交換学習を行うプログラム。

***BBP：国際交流や言語学習を中心としたグローバルcommons <http://www.ritsumei.ac.jp/bbp/>

私の朝鮮語 + R

※2020年度インタビュー

国際関係学部 Mさん



- # 日韓関係の携わる仕事をしたい
- # BBP
- # 副専攻
- # 座学での学びにマンネリ化を感じる
- # 短期研修
- # 交換留学
- # 現地でのインターンシップ
- # 韓国語試験の勉強
- # しっかり授業の予習・復習



大学入学前から家族の影響もあり、「韓国文化」ファンでした。旅行やドラマ、K-POPなど身近に触れる韓国文化を楽しみつつ、違った側面（社会的情勢や外交など）にも興味をもっていました。

大学入学後は、教養科目「国際平和交流セミナー（現在の科目名：平和人権フィールドスタディ）」に参加し、日韓関係の歴史や外交や政治問題について学びました。また正課の授業や、BBP (Beyond Borders Plaza)* を通じて多くの韓国人の友人と出会い、交流を行いました。一方で、「韓国」以外の国にも触れてみよう、ボランティア団体に所属しカンボジアへ行きましたが、逆に自身が強く関心を抱くのは「韓国」しかないと思うきっかけとなりました。

大学での外国語の授業では、初修語講義や副専攻**のクラスを受講していました。韓国語の学習は、特別なことをしなくても大学の講義の予習・復習をしっかりとすることで身につくと考えています。しかし自身の学習スタイルが講義の予習・復習と単調になりマンネリ化を感じたため、2回生の夏期休暇中に学外の韓国訪問プログラムに応募し、無事選ばれ10日間の韓国研修に参加しました。そこで韓国外交部とのブリーフィングを通じて文化などのソフトパワーを利用する外交政策「パブリックディプロマシー」に興味を持ちました。それらをさらに深く知るために、1年間の交換留学を意思しました。留学に向け、本格的に勉強を始めました。例えば動画配信サービスを利用し韓国語試験に向け自主学習に取り組んだり、様々なSNSを活用したりすることで韓国語だけではなく、文化等を学びました。

高麗大学への1年間の交換留学は、環境に慣れるまで大変でした。最初はレギュラーの講義を半分程しか理解することができませんでしたが、少しずつ留学生活に慣れることができ、夏期休暇中は日本へ帰国せず、在韓日本大使館でインターンシップに応募し、韓国国内で報道される日本に関するニュースを翻訳する現地スタッフのサポートを経験しました。韓国語で現地のニュースを見聞きし、書き起こすことで、現地だからできるスキルを修得することができました。

留学帰国後は韓国語の勉強を怠っていた時期もありましたが、留学の成果を数値化することを目標に韓国語試験を受けるため自主学習を再開しました。卒論は韓国のパブリックディプロマシーをテーマに執筆しました。卒業後は、大学院に進学し、研究を続けていく予定です。大学院を修了後は、日韓関係に携わる仕事につくことを目指しています。

語句紹介

*BBP：国際交流や言語学習を中心としたグローバルコモンズ
<http://www.ritsumei.ac.jp/bbp/>

**副専攻：必修外国語の履修などでこれまでに培った外国語能力をベースに、より一層高い運用能力とその外国語学習を通じて幅広い教養を身につけることを目的としたプログラム。（対象の学部：法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部・映像学部・経済学部・食マネジメント学部）
<http://www.ritsumei.ac.jp/genko/seika-manabi/minor.html/>